



## 研究調査報告

海外神社跡地から見た景観の持続と変容

# 海外神社跡地調査（韓国）・麗水神社

辻子 実

（非文字資料研究センター研究協力者）

## 【はじめに】

韓国における侵略神社に関して、特に朝鮮神宮に関しては、多くの研究・調査がなされ、文献・絵葉書・鳥瞰図などによって、往時の境内規模も推定可能であるが、地方にあった神社・神祠に関しては、文献・写真・図面なども少なく調査が進んでいない状況にある。

今回は、全羅南洞麗水市にあった麗水神社の跡地特定を目的として調査を行った。

## 【朝鮮における侵略神社行政】

侵略神社行政を考察する場合、小規模な神社施設である神祠を考慮しないと、神宮・神社は、79社しか創建されていなかったことになり、神祠が1062社も創建され、朝鮮総督府の「一面一祠」政策が推進されたことを正確に把握できない。

朝鮮総督府は、神社と神祠を差別化し、神祠には名称・所在地名を付けない。遥拝すべき祭神は天照大神などと内規で定め、神祠の濫設を規制する事によって、神社の

尊厳を高めていた。

このほか、各地の学校に造られた奉安殿も、「御真影の下賜」年次によって、学校の格を明確にし、日常的には奉安殿に向かって最敬礼を義務づけ、家庭には大麻の配布、神棚設置などによって、天皇の神格化が謀られた。

さらには日本と同様、国民総力朝鮮連盟は、国民精神総動員運動の一環として、1939年、平沼内閣が毎月1日を、戦場の労苦を思い、自粛自制する興亜奉公日と定めていたものを、1942年1月から東條内閣によって毎月8日が「大詔奉戴日」と定められたことに準じて、毎月8日を愛国日と定め、この日には学校や職場で、神社参拝、開戦の詔書奉読式、必勝祈願、各戸の国旗掲揚、職域奉公を義務づけ、一汁一菜、料理店・待合などでの酒類販売禁止と営業時間短縮なども定め、日常の隅々にまで神国大日本帝国思想の刷り込みが行われた。

## 【麗水神社】

祭神；天照大神・明治天皇・大物主命・事代主命・国魂大神・崇徳天皇・須佐男命。



図1 麗水神社・案内図

創建；1939年8月15日。

麗水神社に関して、『大陸神社大観』（岩下傳四郎・大陸神社聯盟・1941年7月18日）は概略、以下のよう  
に記している。

1. 1918年6月金刀比羅神社として創立許可。
2. その後、財政的に維持困難を生じ請願の上、神祠に変更。
3. 1936年5月23日社殿移転造営の条件の下に祭神天照大神奉斎の許可。
4. 1936年11月30日伊勢神宮の分霊を迎え、鎮座。
5. 1940年本殿拝殿社務所の改修をなし専任神職を置く。
6. 紀元二千六百（1940）年記念事業として神社移転造営奉賛会を組織。
7. 基金10万円で、鐘鼓山の南麓に移転し、拡張整備、目下造営中。

麗水神社は「氏子」の申し出により神祠に降格、そして神社に昇格という珍しい経緯を経ている。祭神が金刀比羅であることから、漁業関係日本人有力者の私祭社として創建された神社が、財政的基盤を無くして神祠になり、天照大神奉斎の許可を受けて官祭社として整備・確立されていく過程と考えられる。

## 【神祠】

朝鮮では、1936年「神社規則」が制定され、「朝鮮神社規則」第3条に「神社には神殿・玉垣・神饌所・拝殿・手水舎・鳥居・社務所を備うべし」と定められ、神社明細帳に崇敬者戸数として、内地人〇〇戸・朝鮮人〇〇戸と記載することが定められ、神社を創建するためには50人以上の連署を必要とした。

しかし、50人以上の連署が集まらなかった場合には、「地方住民の事情により一般神社の体裁を具備せる神社を創立難致場所に限り其の地方住民に敬神上の満足を与えるため特例」として、「神祠に関する件」（1917年3月・府令21号）が発令され、同時に、「神祠に関する件」の解説編ともいうべき「神祠に関する規定を定むる件」も発令されている。

「神祠に関する規定を定むる件」

今般府令第21号をもって神祠に関する規則を定められたる趣旨は地方住民の事情により一般神社の体裁を具備せる神社を創立難致場所に限り其の地方住民に敬神上満足にあたうる為特例を設けられたる義に付本令により神祠設立を出願するもの有之節は篤と実況を審議し現に其の土地に居住する者の力をもって神社を創立し之を維

持することあたわずと認むるものに限り意見を付して進達しなお下記の点御留意相成度及内牒候也。

- ①神祠は神社に比して諸般の設備輕易なる為動もすれば濫設の弊を生じ易しよって之を防止するに努め且将来神社創立の場合に差し障りとならざる様に注意すること。
- ②神祠の称号はなるべく祭神と祠名と契合する普通名詞を選択せしめ（例えば天照大神を祭神とする時は神明神祠といい菅田別命を祭神とするときは八幡神祠とするの類その神祠所在の郡名面名は之を避けしむる様注意すること。
- ③神祠は一般神社に比して其の崇敬者となるべき者少数なるがゆえに設立後において守衛不行き届き等の為神祇の尊厳を流すごときことなからしむる様充分注意せしむること。
- ④神祠には受け持ち神職を定め祭事を委託すべきは勿論なりといえども地方の状況により最寄便宜の地に其の人を得難き場合においては篤と事情を取り調べ本令八条二項により許可を与えること。

さらに1935年には、「神社となすの前提として設けしめらるる趣旨」を発令しているが、これは、麗水神社の移転改築の時期とも整合している。

## 【事前調査】

現在、侵略神社跡地調査を行うにあたっての基本的参考文献としては『大陸神社大観』と『神社本庁 教学研究紀要2・3・4号』（佐藤弘毅論文）が挙げられる。

麗水神社に関しては、それらの資料によって神社の存在は明らかであったが、佐藤論文においても戦前の住所の記載があるだけで、現在の地名は記されておらず神社跡地の特定に関しては不明確であった。

そのため、今回の調査にあたっては、韓国在住の方々



写真1 姑蘇臺



写真 2 麗水金比羅神社

も含めて多くの方々に「麗水神社があった場所」の問合せを行った。今後の神社跡地特定調査の参考に資すればと考え、麗水神社跡地特定に至る経緯を記しておきたい。

最初に問合せに答えて頂いたのが、麗水の「姑蘇台」が旧麗水神社との回答であった。

「姑蘇台」（写真 1）麗水市観光情報では、「李舜臣將軍が水軍の訓練を督励しながら文祿の役の勃発後に作戦計画を立てる一方、軍令を下した所。」（全羅左水營城の跡）であり、建物の中には、墮涙碑・東嶺小喝碑・統制李公水軍大捷碑が収められており、侵略神社跡地利用としては、象徴的な意味を持つと考えられること、「麗水金比羅神社（『大陸神社大観』では、金刀比羅神社）」（写真 2）の写真も入手できたので、「姑蘇台」が旧麗水神社跡地であることは、間違いないと考えられたが、その後、麗水神社所在地情報として、

- ①現「姑蘇台」は、旧「麗水金比羅神社」で、『大陸神社大観』などから、後日移転して「麗水神社」となった。
- ②旧住所表示〔全羅南道麗水郡靈水邑西町三〕は、現住所表示「全羅南道 麗水市 忠武洞 3」と考えられる。
- ③旧住所表示〔全羅南道麗水郡麗水邑西町三〕は、現住所表示〔全羅南道麗水市麗西洞 3 番地〕説。この説は、他の資料などによって、麗水神社とは別の神祠と考えられる。
- ④「鎮南館」居城跡地の直ぐ下に当たり、駐車場の隣。ここは、「鎮南館」の歴史的由来もあって、可能性が高いと考えられる。

以上の情報を基に、現地に赴き「麗水地域社会研究所」において、ヒアリングを行った結果、

- ①麗水神社所在地は、現在「麗水工業高校・麗水鐘鼓中学校」になっている。これは、旧住所表示〔全羅南道

麗水郡靈水邑西町三〕は、現〔全羅南道 麗水市 忠武洞 3〕と整合している。

- ②「敗戦時直ちに、麗水神社社殿を放火消滅させようとしたが、日本人が居たので断念し、後日（一ヶ月以内）放火消滅させた。神社社殿を放火消滅させた青年団の名簿が存在する。」（麗水地域社会研究所関係者談）との貴重な証言が得られた。

この証言は、「8 月 15 日、平壤神社が放火されたのを始めとして、16 日には、定州神社・安岳神社、温井里神祠などが朝鮮の民衆、あるいはソ連軍によって放火・破壊されている。16 日から 8 日間に神祠及び学校の奉安殿に対する放火・破壊も 136 件に及び、警察署に対する占拠など 149 件に匹敵する件数が起きた。」との記事とも整合している。

## 【現地調査】

提示した地図及び概念図は、確認されている侵略神社跡や遺跡に関して、現在はブログなどで写真などがアップされ現地を訪れやすくなっているが、実際に現地に行った時に、写真の遺跡がどこにあるのか特定できない場合が多々ある。侵略神社跡近隣の駅や、有名観光スポットを明示した地図、及び現地に着いた時に、既知の遺跡の位置が容易にわかるように概念図（図 2）を作成した。

現地に赴いて調査を開始したが、まさに地形的に『旧朝鮮の神社跡地調査とその検討』において、提示されている参道を経て長い階段に至り、長い階段を登ると、そこに鳥居があり、その先が広い広場となる。さらに広場正面の短い階段を登れば、その奥に小規模な神殿が山を背負って建つ、これが一般的な神祠の有り様のようなのである。図 2 神祠の断面模式図の通りであった。

麗水工業高校・麗水鐘鼓中学校の現状と、上記の有り様＜＞を麗水神社推定 □ と照らし合わせてみる。

1. 学校校門から＜坂道＞〔参道〕を経て
2. 校舎内に新設されたコの字型の＜〔階段〕＞があり
3. 階段を登るとそこに、一対の＜狛犬＞（概ね、長さ 70cm. 幅 37cm. 高さ 100cm（写真 3）。〔鳥居〕は、現認できなかった。）が設置されていた。狛犬は、台座部分がないため、移設された可能性を否定できないが、他所から持ってきたとは考えられず、麗水神社跡地であった証左の一つといえる。
4. ＜校庭＞〔広い広場〕
5. 校庭から＜一段高い＞校舎〔短い階段を登れば〕の裏側に回り



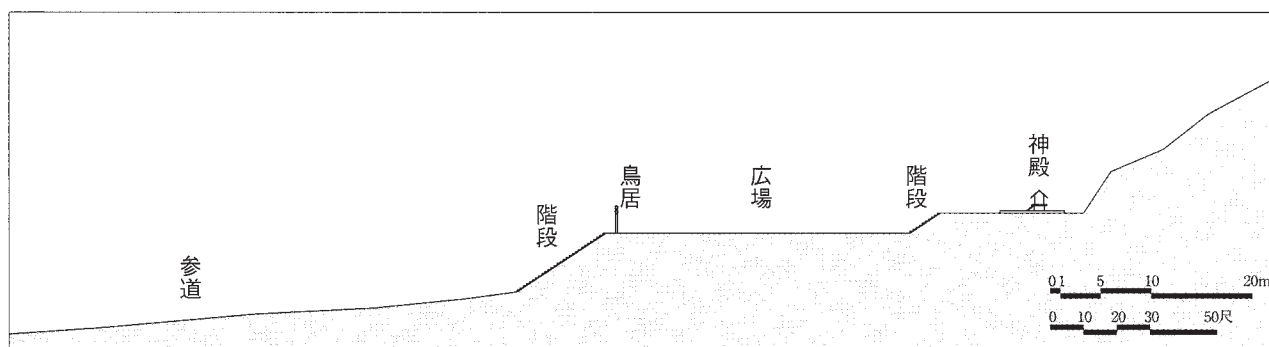


図2 神祠の断面模式図（神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議 年報『人類文化研究のための非文字資料の体系化』3号 p317）



写真3 麗水神社狛犬（左）



写真4 麗水工業高創立時の写真

6. 山肌の岩盤を削って造られた学校敷地〔境内地〕の一部が<台形>（上底約11m。下底約14m。高さ約2m。）に、削り込まれている。学校敷地拡充のために、わざわざ岩盤の一部を切り込むことは考えられないので、こここそ、〔その奥に小規模な神殿が山を背負って建つ〕〔本殿〕跡地と推定できる。

麗水神社（麗水工業高校・麗水鐘鼓中学校）の立地が、絶景の地であることも見過ごせない。鐘鼓山の中腹の南面に位置し、神社（学校）から港の方向を見ると、鎮南館を見下ろし、港が一望できる位置にある。

現在も学校（神社）を港から見上げると、李舜臣広場に建つ李舜臣將軍の銅像と、鎮南館、学校（神社）が直線に結ばれる立地なのである。まさに朝鮮神宮がソウルの街を一望できる南山中腹に創建されたと同様、宗教的ランドマークとしての機能を果たしていたといえる。

麗水工業高校の創立は1947年とのことで、今回の調査では確認できなかったが、創立時の写真(写真4)に写っている校舎は、麗水神社社務所ではないかとの印象を受けた。

【おわりに】

今後の調査課題は、麗水に 11 ケ所あったと言われて

麗水神社跡（現・麗水工業高校／麗水鐘鼓中学校）概念図

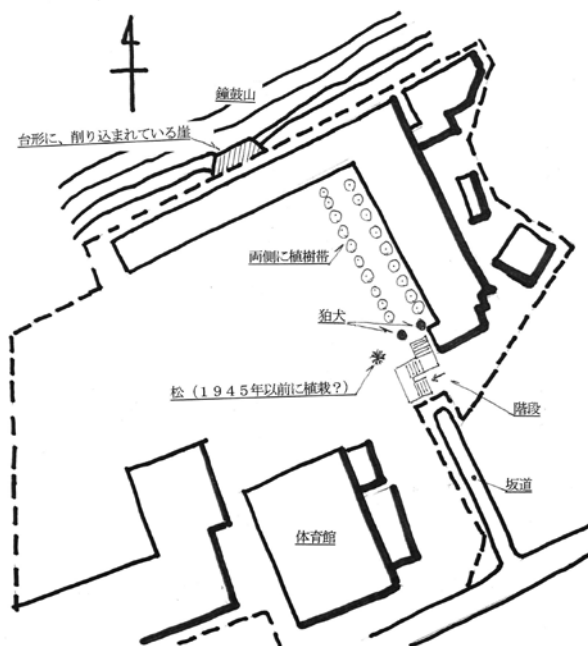


図3 麗水神社概念図

いる神祠の跡地確認の作業も今後の課題である。